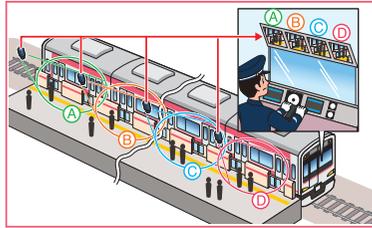


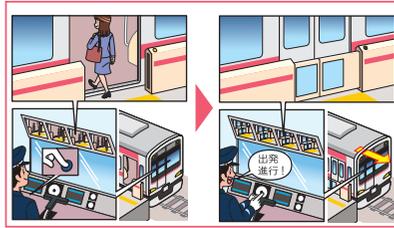
ワンマン運転って 万が一の時、大丈夫なのかしら？



■ 運転席には、お客さまの乗降が分かるモニターが設置されています



ホームに設置したカメラでお客さまの乗降を撮影し、運転席のモニターに投影します。



運転席のモニターを確認して運転士がドアの開閉を行います。

■ ホームドアが列車の出発・到着・通過時の安全を確保します



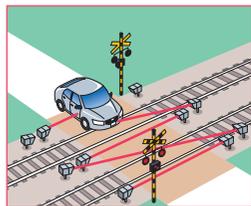
お客さまがホームから転落したり、列車と接触したりする事故を防止するため、東横線・目黒線・東急新横浜線・田園都市線・大井町線の全駅にホームドアを設置しています。また、池上線・東急多摩川線の全駅には、センサー付固定式ホーム柵を設置しています。ホームドアにはセンサーが設置されており、閉まりかけた際に人や荷物を感知するとホームドアが開きます。また、ホームドアが正常に閉まったことを確認できないと列車が発車できない仕組みとなっています。

■ 東急電鉄所属の全車両に防犯カメラを設置しています

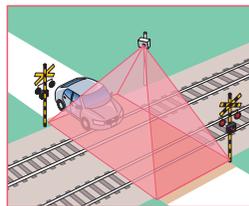


東急電鉄所属の車両に、4Gデータ通信に対応したLED蛍光灯一体型の防犯カメラ「loTube(アイ・オー・チューブ)」を設置し、車両内のセキュリティ向上を図っています。遠隔地からでも映像を確認することができ、車両内のトラブル発生時には、迅速な対応が可能です。

■ 踏切では、レーザー式と3D式の踏切障害物検知装置が、事故を未然に防ぎます



レーザー式踏切障害物検知装置



3D式踏切障害物検知装置

踏切障害物検知装置は、自動車などが踏切で立ち往生した場合にセンサーが検知し、接近する列車の運転士に異常を知らせる信号を送る装置です。当社では、障害物の検知精度が高い3Dセンサー式の導入を進めており、2025年度中に134箇所すべての踏切に設置が完了する予定です。

東急線では、一部路線でワンマン運転を実施しています。ワンマン運転時も安全に運行できるよう、また、お客さまに安心してご利用いただけるよう、さまざまな安全対策に取り組んでいます。



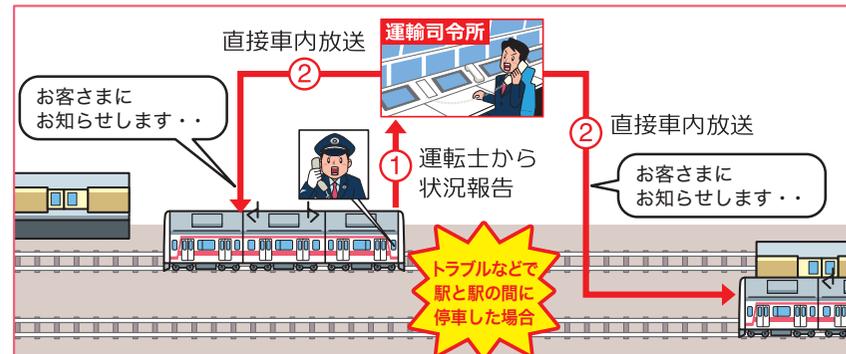
■ 車内非常通報ボタンは運転司令所^{*}ともつながっています



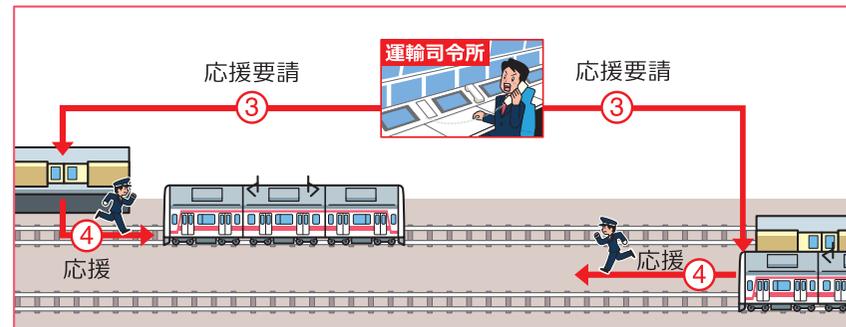
車内非常通報ボタンは、1車両に1～4カ所設置されています。ボタンを押すと運転士が応答します。運転士が応答できない場合は運転司令所に自動で転送され、運転司令所の司令員が応答します。

*東急線の運行を管理する部署です

■ トラブル時は、運転司令所から車内放送や応援者要請を行います



トラブルなどでやむを得ず駅と駅の間に停車した場合、運転士または運転司令所から車内放送で状況をお知らせします。



避難誘導が必要な場合には、運転司令所が応援要請を行い、最寄り駅などから応援者が駆け付けます。また、必要に応じて、運転司令所から警察、消防に対応を依頼します。